

未来を担う 子どもたち

～ふるさとうらやす立志塾 in 石巻～
平成24年8月20日(月)～22日(水)

「ふるさとうらやす立志塾」は未来のリーダーを育成することを目的に、平成二十三年度より始まりました。今回は、将来の日本を担う者として、わが国の現状をしっかりと見つめてほしいと願い、東日本大震災で甚大な被害を受けた宮城県石巻市で開催しました。



日和山からまち全体を見渡し、現状をしっかりと見つめました。

二日目は、石巻市役所への表敬訪問の後、仮設住宅を訪ねました。仮設住宅に住む方々は、一瞬のうちに住む家を無くすという容易には想像できない体験をされています。それでも、塾生たちを温かい笑顔で迎えてくださり、「遠いところからありがとうございます」と気遣ってくださいました。

最初は緊張気味だった塾生たちも、徐々に打ち解け、進んで質問をしたり、お話に聞き入ったりと豊かな時間を過ごすことができました。

三日目は、研修のまとめとして帰路につきました。仙台に向かうバスの中で塾生たちは、三日間をともに過ごした仲間と、石巻で学んだことや感じたことを思い思いに語り合っていました。たくさんの方々とお会いした三日間。立場はさまざまでしたが、どの方にもご自分の壮絶な体験に基づいた、命の尊厳や「絆」の本当の意味について教えていただきました。塾生たちは、石巻市で学んだことをこれから少しずつそして大きく、未来を担う者として大きな歩を踏み出していくことでしょう。

一日目は、石巻日日新聞社の武内宏之氏を講師にお迎えしました。石巻日日新聞社は津波の影響で輪転機が使えなくなったにもかかわらず、情報が必要としている地域の方々のために壁新聞を発行したことで有名です。石巻市に到着した後、まずは武内氏と一緒被害の大きかった門脇地区を歩きました。そこに人々の営みがあったとは想像もつきにくい状況に、塾生たちの顔は引き締まり、言葉も少なくなり、終始、穏やかな口調で語

る武内氏でしたが、その姿には現実を受け止め、伝えていく責任を自ら背負った強さを感じられました。「塾生には現実を見てほしい。現実を見たらうえで、前向きな気持ちを持って帰ってほしい」と何度もおっしゃっていた武内氏は、講話の中で自然災害を恐れるのではなく、自分の住む地域を知り、向き合っていくことが大切だと教えてくださいました。

阿部氏は震災後、全国から集まったボランティア活動にし、自らもボランティア活動に携わりました。「例えば、キキも離れたところに水を取りに行くおばあさんの代わりにすべてをしてあげたら、おばあさんのコミュニケーションまで奪うことになるんだよ」という阿部氏のお話は、塾生たちが人と人が支えあうということがどういうことなのかについてあらためて考えるきっかけになりました。

三日間は、研修のまとめとして帰路につきました。仙台に向かうバスの中で塾生たちは、三日間をともに過ごした仲間と、石巻で学んだことや感じたことを思い思いに語り合っていました。たくさんの方々とお会いした三日間。立場はさまざまでしたが、どの方にもご自分の壮絶な体験に基づいた、命の尊厳や「絆」の本当の意味について教えていただきました。塾生たちは、石巻市で学んだことをこれから少しずつそして大きく、未来を担う者として大きな歩を踏み出していくことでしょう。

つながっています！ 保育園と幼稚園

互いに質の高い保育・教育を目指して
市立保育園・幼稚園ではそれぞれがもつ保育・教育のよさを生かしながら、互いに連携し、心豊かな子どもたちの育成に取り組んでいます。



合同研修会で中学校別ブロックの共有や連携を進めていくために意見を出し合い、相互の理解を深めました。

浦安市立保育園・幼稚園では、それぞれが実施している研修に参加しあったり、互いの保育を参観したりする場をもっています。参観後には、必ず協議の場をもち、「乳児には、手先を使う遊びが大切なですね」「子どもたちに考えさせる保育者の言葉かけが参考になりました」「等、互いに気づいたことや保育内容について話し合っています。他にも幼保小連携教育の視点から、五歳児が滑らかに小学校生活に移行できるよう、小学校教員との合同研修も実施し、さまざまな研修会を通して、職員の資質向上や質の高い保育を目指しています。

六月二十五日(月)、ふたば保育園の子どもたちが、北部幼稚園の音楽発表会の活動を参観しました。演奏する幼稚園児も、演奏に耳を傾ける保育園児も、互いに真剣なまなざしでした。演奏後には、保育園児からの「かっこよかった」「私もやってみたい。」等の言葉に、少し照れくさそうにほほ笑む幼稚園児でした。参観のあとは一緒に戶外遊びを楽しみ、「今度は保育園にも来てね。」と再会を約束しました。友達の姿を見て抱く憧れや、自分が認められたことで感じた自信は、子どもたちの「意欲」を育てる、大切な心の動きです。新しい友達とのふれあいの中で、心も体も心地よく揺れたひとときとなりました。

この経験が、小学校入学後「〇〇幼稚園の〇〇くん。この子、知ってる！」という子どもたちの安心感にもつながります。「人とかわる楽しさを感じてほしい」「人と豊かにかかわることのできる子どもたちに育ってほしい」等、教師間で活動のねらいや思いを共有し、互いの子どもの育ちを支えていきたいと考えています。



23年度幼稚園作品展の様子「わあー、すてきだね」「こんなの作ってみたいな」

市立各幼稚園では、表現・鑑賞活動を通して豊かな心をもつ子どもたちの育成と指導の充実を目指し、日常の表現活動の成果を発表する場として、毎年小・中学校と一緒作品展を実施しています。平成二十四年度からは、子どもたちが感動したこと、友達からの刺激を受け一緒に取り組んだ制作等、日々の保育のひとコマを作品という形で表現してみようと、保育園二園も参加することになりました。自分たちの作品を多くの方に見ていただいたり、自分たちも他の作品を見たりして、たくさんの刺激を受けることは、子どもたちにとって大きな自信、成長につながっていきます。十一月十日(土)からウエーブ101で行われる作品展に、ぜひ、足を運んでください。

合同の保育者研修

「一緒に遊ぼう！」：園児同士の交流活動

保育園の作品展参加スタート！